

祝 両中・高創立60周年記念



追手門学院に就職した頃

柴岡 浩平

(茨木中高・昭和60年～63年)

就職したのは、昭和31年、24歳の時だった。配属された高等学部の男女生徒諸君の表情のなんと明るく可愛かったことか! 大阪城のお濠端を通る観光バスのガイドさんが、マイクの大きな声で「こちらは追手門学院と申します、関西の学習院とも呼ばれている名門校でございます。」と案内する声に、教室の生徒諸君が、恥ずかしさも交えて一斉に大爆笑する声が今もこの耳朶に鳴り響いてくる。

追高で40年余りも教師をさせてもらって、ほんと、自分の人生は幸せな人生だった…と、つくづく思う毎日がある。

みんな、有難う! いつまでもお元気に!

松本 曜子
小80 大中23 茨高23
松本 修明
小83 大中26
西田 尚子(松本)
小85 大中28 茨高28

生き方のヒント

石川 陽運

(茨木中高・平成9～13年)

教育困難が叫ばれる昨今ですが、私自身は、伝統ある追手門学院で、教員として時代にも人にも恵まれました。その仕合せに感謝しています。

関わりのあった学年の同窓会では、いつも充実した時間と元気をもらっています。すっかり立派になった彼らの姿を見る時、社会の持つ教育力の凄さを知り、同時に関わったことが嬉しく、誇りに思います。

ここ何年か、「徒然草」の勉強会のお世話をさせていただいている。93段に「人、死を憎まば、生を愛すべし。存命の喜び、日々に楽しまざらんや。」という一節があります。はや古希となった私への生き方のヒントをいただいたと思っていました。

天野 雅充

足立 尚

西内 佳世子(吉原)

中川 厚子(坂東)

茨木中
4期



50年経っても

橋本 定也

(茨木中高・昭和63年～平成9年)

つい先日、私が新任の頃の古い卒業生のグループから声がかかり、集まった。長い付き合いになっているいつもの顔、ぶれである。話が弾んでいる中で、一人が私に向かって云う、「先生、先生って俺らは言ってるけど、本当は違うんだナ。仲間なんだヨ、ワルイけど…」

笑いながら頷いていたが、内心は何とも嬉しかった。この気持ちは説明できない。いや、したくないのかも知れない。

こんなことを云うと、話はズッコケてしまいますが、卒業生たちといふ時、それは老化防止の最高の妙薬、とゴマかしておきます。

謡曲

岡本 平

(茨木中高・平成18年～19年)

60周年おめでとうございます。在職中はご理解とご協力を賜り、御礼申し上げます。

健康に留意し、謡曲などに時間を割いています。謡曲で大きな声を出すことは健康的です。「謡曲15徳」の中にも、「薬無くして、鬱氣を散す」があります。医学的にみても、腹式呼吸による酸素の注入は、エネルギーの再生産に有効であろうし、ストレスの解消に役立ちます。

「行かずして、名所を知る」も謡曲の1徳です。能のワキ僧のつもりで旅をすると、面白いでしょう。謡曲を習い始めて約40年が過ぎます。謡曲も奥が深いので、いつまでも習い続けたいです。

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。